

# 第3回 世界子ども水フォーラム 参加活動報告

2009  
03.12-17

水に関する世界最大級の子ども国際会議である「第3回世界子ども水フォーラム（「第5回世界水フォーラム」の一環として開催）」が2009年3月にイスタンブール（トルコ共和国）で開催され、日本から全国の水に関する活動を行っている6名の中高生が派遣・参加し、自分たちが日本でやっている活動の紹介や世界の子どもたちと国際交流を行いました。

5th WORLD WATER FORUM  
ISTANBUL 2009



BRIDGING  
DIVIDES  
FOR WATER



3rd CHILDREN'S WORLD WATER FORUM  
ISTANBUL 12-17 MARCH 2009

# 01 概要

第5回世界水フォーラム（2009年3月トルコ共和国イスタンブールにて開催）の一環として第3回 世界子ども水フォーラム（3<sup>rd</sup> Children's World Water Forum：以下「CWWF3」と言う）が開催された。

## 1 開催期間（参加イベント含む）

2009年3月12日（木）～18日（水） ※18日（水）は地球水教育村での発表

## 2 場所

Sütlüce Congress and Cultural Center 及び Feshane（トルコ共和国イスタンブール）

## 3 主催

第5回世界水フォーラム事務局、トルコ教育省、プロジェクト WET インターナショナル、日本水フォーラム

## 4 大会全体のテーマ

“Bridging Divides for Water”（水問題解決のための架け橋）

## 5 派遣目的

- ① 日本の子どもたちが自ら行っている活動内容を世界に向けて発表する。
- ② フォローアップ東京2008の代表として、参加者全員で議論した内容や、日本独自の水の活動を世界にアピールする。
- ③ ワークショップ等に参加し、世界の子どもたちと意見交換を行う。
- ④ 第1回および第2回世界子ども水フォーラムの経験・成果を引き継ぐ。
- ⑤ 世界の水事情について情報収集し、日本国内に発信する。
- ⑥ 世界及び日本の子どもたちのネットワークを構築する。

## 6 実施項目

- ① 世界各国の子どもたちとの交流
- ② 水の重要性についてのプレゼン（第1回大会開催国としての発表）
- ③ 水の重要性に関するポスターの作成・掲示
- ④ 子どもたち自らが行っている水に関する活動について発表・意見交換  
（「第3回子ども水フォーラム」及び「地球水教育村」"Children's Activities of Water"の場で発表）
- ⑤ 子ども水宣言文の作成・意見交換
- ⑥ 水に関する施設見学（エクスカーション）
- ⑦ 「第5回世界水フォーラム」開会式への参加
- ⑧ 「地球水教育村」（プロジェクトWETインターナショナル主催関連行事）への参加
- ⑨ 「第5回世界水フォーラム」セッション（水と災害）に参加
- ⑩ 閉会式での意見発表

## 7 スケジュール

※12～17日の間は「第3回 世界子ども水フォーラム」のプログラム

	3/12(木)	13(金)	14(土)	15(日)	16(月)	17(火)	18(水)
午前	登録	世界子ども水フォーラム開会式	プレゼンテーション、グループアクティビティ等	エクスカーション	世界水フォーラム開会式への参加	地球水教育村への参加	地球水教育村での発表
午後		プレゼンテーション、グループアクティビティ等			地球水教育村への参加	世界子ども水フォーラム開会式	
夕方	アイスブレイク	施設見学			各国文化紹介		

## 8 フォーラム参加者

世界5Region（アジア・オセアニア、ヨーロッパ、中近東、アフリカ、南北アメリカ）から21の国・地域の子ども135名が参加 ※日本からは中高生6名が参加

（アルバニア、アメリカ、アルジェリア、イラン、エジプト、ガーナ、韓国、スリランカ、スーダン、タジキスタン、トルコ、トーゴ、日本、ネパール、パキスタン、パレスチナ、バングラディッシュ、ベトナム、ボスニア・ヘルツェゴビナ、メキシコ、レバノン）

## 9 日本派遣団

派遣者：6名／随行者：3名／通訳者：1名 計10名

No.	県別	名前	ふりがな	性別	学校名	学年
1	茨城県	門口 光司	かどぐち こうじ	男	茨城県立土浦第三高等学校	高1
2	東京都	荒川 桃子	あらかわ ももこ	女	私立慶応義塾女子高等学校	高3
3	山口県	吉野 智美	よしの ともみ	女	防府市立牟礼中学校	中2
4	福岡県	仲野 美穂	なかの みほ	女	福岡県立鞍手高等学校	高2
5	福岡県	坂本 裕基	さかもと ゆうき	男	福岡県立鞍手高等学校	高2
6	福岡県	曾根 裕子	そね ひろこ	女	直方市立直方第三中学校	中3

## 10 世界子ども水フォーラムの経緯

世界子ども水フォーラムは、2003年に日本（京都・大阪・滋賀）で開催された「第3回世界水フォーラム」において第1回が開催され、世界各国の子どもたちと日本の子どもたちが交流しながら世界各地の水問題解決のための行動等についての議論や発表を行った。

第2回は2006年にメキシコ（メキシコシティ）で開催された。今回、3回目の開催となる。

## 11 参加者の選出について

参加する6名は全国の中高生約100名の作文応募の中から、2008年8月に行われた「世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京2008」での投票（40名から10名）、イスタンブールに向けた勉強会（10名から6名）を経て派遣委員会（委員長：大妻女子大学岡島成行教授）において選出された。

# 02 第3回 世界子ども水フォーラムに向けた勉強会

イスタンブールでの発表に向け、平成20年8月に東京で開催された「世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京2008」（中高生40名が参加）の場で、投票により選ばれた10名の派遣候補者による勉強会が行われた

## 1 開催日

- 第1回 平成20年 11月8日(土)～9日(日)
- 第2回 平成20年12月13日(土)～14日(日)
- 第3回 平成21年 1月31日(土)～2月1日(日)
- 第4回 平成21年 3月10日(火)

## 2 場所

財団法人 河川環境管理財団 会議室

## 3 詳細



### 第1回

第1回目となる勉強会では派遣候補者10名が、各自が行っている水に関する活動の発表を行い、日本から発信する内容について議論した。

初日には「日本の水事情」と題し、国土交通省河川局河川環境課の田中河川環境教育係長より日本における今日までの治水事業や水の利用、河川環境等について講義をいただき、2日目は京都大学教授の清水芳久先生に、国際会議でのプレゼンの仕方や「世界の水事情」等について講演をいただいた。

また、大学生のファシリテーターのリードのもと、3つのグループに分かれ、各グループで共通のテーマを設定した。



### 第2回

第2回目の勉強会では、3つのテーマに分かれたグループ内で、発表資料の作成、効果的なプレゼンテーションの練習等を行った。グループで発表内容をまとめあげることやそれぞれのグループの発表の特色を出すことが非常に難しく、第2回の勉強会以降も、ファシリテーターの協力のもとインターネット上で発表内容の検討が行われた。



### 第3回

第3回目の勉強会では、発表資料の英訳及び英語でのプレゼンテーションの特訓等を実施し、2名のネイティブ英語講師の指導のもと、英語で発表を行う際のポイント、質疑応答の仕方、プレゼンテーション資料の添削、発音練習等を行った。

### 第4回

イスタンブール出発の前日に第4回目の勉強会を行い、英語によるプレゼンテーションの最終リハーサルを実施した。

第3回目の勉強会以降、派遣者6名は各自で英語による発表の特訓を行ってきており、プレゼンテーションが各段に上達していた。



# 03 派遣委員会主催壮行会

- 開催日** 平成21年3月10日(火)
- 場所** 財団法人 河川環境管理財団 会議室
- 主催** 第3回 世界子ども水フォーラム派遣委員会

第3回世界子ども水フォーラム派遣委員会が主催で、派遣される子どもたち6名の壮行会を実施した。壮行会では竹村委員から激励の言葉をいただき、最終発表後の交流会では、これまでこの勉強会等に協力してくれた大学生のファシリテーターから派遣者へエールを送り、派遣者からはイスタンブールに向けての意気込みを語ってもらった。

## 参加者からの意気込み

- 【門口】 英語は苦手ですが、頑張ってコミュニケーションをします。
- 【荒川】 フォローアップ大会や勉強会で得られた経験を活かし、目一杯頑張ります。
- 【吉野】 トルコでいろいろな事を吸収して、元気に日本に帰ってきます。
- 【仲野】 これまでいろいろ支えてくれた人の期待に応えられるよう、頑張ります。
- 【坂本】 フォローアップに参加した仲間や遠賀川の仲間の分まで頑張ります。
- 【曽根】 世界各国の子どもたちと交流し、たくさんの仲間を作りたいです。



竹村委員からの激励



ファシリテーターからのエール

# 04 出陣式

**開催日** 平成21年3月10日(火)

**場所** 国土交通省 副大臣室

第3回世界子ども水フォーラムに参加するに先立って、派遣者6名は金子国土交通副大臣を表敬訪問した。初めての国土交通省訪問という事もあり、少し緊張した様子だったが、広い副大臣室では終始にこやかな金子副大臣に歓迎され、記者をはじめとした大勢の大人に囲まれながらも、派遣者はイスタンブール大会に向けての意気込みや普段自分たちが行っている活動をひとりひとりがしっかりと紹介し、様々な意見交換を行った。

金子副大臣からは「普段皆さんが行ってきている活動を堂々と発表することが重要。大事なのは目と目を合わせて会話をすること。そうすればきっと伝わる。日本を代表して、元気に頑張ってきてほしい。」といった激励の言葉をいただいた。

また、副大臣室では谷口技監、甲村河川局長も同席していただいた。



金子副大臣からの激励



派遣者の意気込み



金子副大臣と記念撮影

# 05 活動レポート(第1日目)

## 1 イスタンブールに到着

成田空港を3月11日の午後に出発し、約13時間。ようやく「第3回世界子ども水フォーラム」の開催地であるトルコ共和国はイスタンブールに到着した。

派遣者6人中、5名が海外が初めてということもあり、成田空港からの出発は少し緊張した様子だったが、ファシリテーターの大学生と関係者に温かく見送られ、イスタンブールへの第一歩を踏み出した。

機内では、派遣団はまとまって座ることができたので、発表の練習や、海外の子どもたちへのプレゼントとなる折り紙などの出し物の作成準備等を行うことができ、約13時間という長い空の旅をそれぞれ満喫していた様子であった。

到着は現地時間の同日20時。7時間の時差があったため、日本時間では翌日午前3時にあたった。長旅と時差で少し疲労の色が見えたが、目的地に着いたことで気持ちを新たに、イスタンブールのアタチュルク国際空港を後にし、宿泊場所へ向かった。

イスタンブールの交通量は夜の時間でも非常に多く、いたるところでクラクションが鳴るなど、ハラハラしながらのドライブだったが、無事にタクシム広場近くの宿泊場所にチェックインをし、イスタンブール第一日目を終えた。



成田空港に向け出発



成田空港にて見送りのファシリテーターと



イスタンブールのアタチュルク国際空港に到着



宿泊場所にて小休憩

# 06 活動レポート(第2日目)

## 1 水に関する施設見学

「第3回世界子ども水フォーラム」第2日目。今日から実質的なプログラムが開始した。夕方行う予定であったレジストレーション(登録手続き)を午前中にフォーラム事務局が用意する宿泊先で済ますことができたので、夕方のアイスブレイクの時間までは施設見学の時間を取った。

一同はまずイスタンブールの歴史を物語るトプカプ宮殿やブルーモスクといったイスタンブールの主要な名所を回ったあと、周辺の水に関する施設等を見学した。

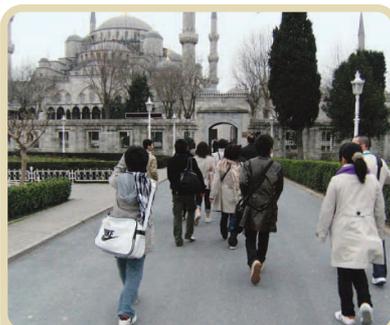
次に、東ローマ帝国時代の巨大な貯水池である地下宮殿を見学し、光と水が織りなす荘厳な空間に圧倒された。次にその貯水池へ水の中継したヴァレンス水道橋を見学し、かつての大帝国の水事情に思いをはせた。



登録場所にて



貯水池である荘厳な地下宮殿



ブルーモスク



ヴァレンス水道橋

## 2 アイスブレイク

途中雨が降ってきたため早めに宿泊先に戻り、休憩をとることにしたが急きょ夕方行う予定であったアイスブレイクが早めに行われることになり、トルコの子どもたちと日本の子どもたちとで交流を行った。各国の子どもたちの便が少し遅れていることもあり、2国だけで盛り上がるか心配だったが、始まってみると自己紹介や仮想のボール投げ等のアイスブレイクが白熱し、おいに交流をすることができた。



アイスブレイクの様子



トルコの子どもたちと

# 07 活動レポート(第3日目)

## 1 開会式とメッセージ

いよいよ始まった「第3回世界子ども水フォーラム」。“親フォーラム”である「第5回世界水フォーラム」の主会場と同じ場所で開会式が行われた。

はじめに「第5回世界水フォーラム」副事務局長であるサチ氏が挨拶され、プログラムが進行した。21の国と地域から参加した約150人の子どもたちは年齢の近い参加者同士の集まりとなるよう、10グループに分かれて、各テーブルについた。日本の子どもたちも1~2人にそれぞれ分かれ、各国の参加者とアイスブレイク及び自己紹介を行った。

その後、開会式のメッセージを今回、及びこれまでの第1回、第2回の「世界子ども水フォーラム」のホスト国である日本、メキシコ、トルコの代表者が順に「Importance of Water in Our Life」をテーマにそれぞれ約10分のプレゼンを行った。

日本からは荒川桃子さんが代表としてスピーチを実施。「湯水の如く」や「水に流す」といった日本の言い回しを紹介し、水に対する人々の意識や、日本の水事情の現状、これまで日本の子どもたちが行ってきた活動等を取り上げ、第1回のホスト国にふさわしい見事なプレゼンを披露し、会場から大きな拍手が起こった。



第3回世界子ども水フォーラム開会式



開会式でのスピーチ



グループワーク



## 2 グループワークやポスターセッションで交流しました。

開会式メッセージのあとは、また同じ10つのグループごとに分かれ、さきほどの「Impotrance of Water in Our Life」をテーマに各グループでの意見交換や、ブレインストーミングが行われ、それを各グループでまとめ上げ、グループの代表者が壇上で話し合ったことなどを発表した。中には大人顔負けのプレゼンをするものもあり、改めてこの世界大会参加者のレベルの高さに参加者は驚いていた。

昼食後は、ポスターアクティビティを実施。このアクティビティのファシリテーター役には地元のアーティストのほか、日本の随員の大学生等も抜擢され、アクティビティの実施に貢献した。各グループそれぞれ約4平方メートルの大きな布のキャンバスに1枚程度の水に関するテーマでイラスト描き、ポスターを作成した。

当初英語やトルコ語をメインとした想像以上に早い進行にとまどっていた日本の参加者も、自分の着ている「第3回世界子ども水フォーラム」オリジナルTシャツにメッセージ等を書いたりったり名刺を交換すなどの交流を始めると次第に積極性を取り戻し、終始笑いの絶えない交流を行っていた。



水に関するポスター作り



ポスター発表

## 3 トルコの国営放送に出演

開会式メッセージのプレゼンを行った荒川桃子さんをはじめとした各国の子どもたち数名がトルコの国営テレビである「TRT（トルコ国営放送局）」に出演した。

会場から車で約30分程にあるTRT局内のスタジオで、少しの時間リハーサル等を行った後、数台のテレビカメラに囲まれ、収録が開始された。インタビュー形式で各国の代表者が順に水について行っている活動についての発表を行い、荒川さんからは自分の学校で行っている水や環境についての広報活動をわかりやすく紹介した。



国営放送に出演

## 4 エネルギー博物館を見学

ポスターセッションが終了したあと、フォーラム会場が面している金角湾の端にあるエネルギー博物館を見学した。この博物館はもともと発電所だったが、解体後はエネルギー博物館として一般に公開されている。

また、博物館の敷地内には水に関する展示物が数多くあり、参加者はスタッフの説明のもと、水に関する実験装置等を体験した。



エネルギー博物館見学

# 08 活動レポート(第4日目)

## 1 自国紹介プレゼンテーション

「第3回世界子ども水フォーラム」での発表はこれまでの大会と異なり、ポスターセッション形式で行われた。そのポスターセッションの前段として、全参加国から1~2分程度自国紹介のプレゼンを行うこととなっており、日本からは門口君が袴姿でプレゼンを行った。まず最初の挨拶は日本語、英語、トルコ語の3ヶ国語で行ったところ会場がどっと沸き、大きな注目が集まった。その後、門口君の明るく元気な発表で、日本とトルコの位置関係、日本には四季があり、豊かな水環境があること、また水問題の解決のために子どもたちが活動を行っていること、これから3グループの発表を行うので、日本のブースを訪れ、是非発表を聞いてほしいといったメッセージを伝え、会場からは大きな拍手が起こった。



自国紹介プレゼン

## 2 全員でブースプレゼンテーションを行った。

自国紹介プレゼンのあとは、会場内に日本のブースを設け、ポスターセッション形式のプレゼンを行った。日本で4回勉強会を行い、それぞれがこれまで練習してきた成果もあり、発表はスムーズに行うことができたが、ブース同士の距離が狭く、会場が雑然としていたため今まで以上に大きな声を出す必要があった。

参加者は各ブースを自由に回れる事ができるため、多くの参加者は足早にブースを見学していたが、日本の3グループの発表を最後まで聞いてくれる人も数多くおり、どのグループも一通り日本の子どもたちの活動を伝えることができた。

また、各国のブースも見学し、活動についての意見交換やお土産交換を行うなど積極的に交流を図っていた。



各国のブース



ポスターセッション会場



ポスターセッションでのプレゼン①



ポスターセッションでのプレゼン②



ポスターセッションでのプレゼン③

### 3 宣言文作成意見交換

午後からは宣言文作成のための意見交換が10のグループごとに分かれて行われた。各グループには約15名もの参加者がおり、なかなか全員が均等に意見を出し合うことができず、トルコのファシリテーターと声の大きな参加者同士とで議論が進んでいくシーンも数多くあり、日本や英語圏以外の子どもたちはなかなか議論に加わるのが難しい場面があった。また、子どもたちが何をすべきかというよりも大人に何をしてもらいたいかといった意見が多く、日本の子どもたちからの「大人に頼る前にまず自分たちが何を出来るかを考えよう」といった提案もあり受け入れられない様子であった。グループワークのやり方は、今後改善の余地があるように思われる。

時間の関係から、出来上がった宣言文も各国の参加者からの意見が反映されたものとは言いがたく、メキシコの参加者からは過去の「子ども水フォーラム」の宣言文が活かされていないと言った意見があった。

日本の子どもたちも第1回大会のホスト国として、今後は更に積極的に日本のこれまで行ってきた活動や得た経験を次につなげていく必要があると感じたようだ。

### 4 リズムアクティビティ

宣言文の作成のあとは、地元の楽団によるパーカッションをメインとした演奏を聞き、参加者もタンバリンやマラカス等を使いリズムに身を任せていた。演奏が盛り上がってくると、会場も一層熱を帯び、各国の参加者ととも踊り歩くなど積極的に交流を図った。



リズムアクティビティ



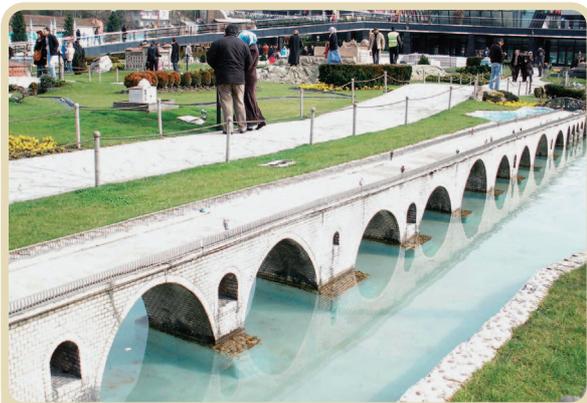
宣言文の発表

# 09 活動レポート(第5日目)

## 1 エクスカーション

第4日目は昨日までのプログラムとは内容は変わり、一日エクスカーションの時間となった。「Tracing Water Steps」と題したこのエクスカーションでは、イスタンブール市内の水に関する名所等を回ることになった。バスの出発時刻から約1時間程してようやく行き先が決まるなど、終始ゆるやかな進行だったが、日本からの参加者に同行したガイドさんの丁寧な解説で楽しく名所を回ることができた。

教会や個人宅の貯水施設、ミニアテュルク(ミニチュア展示)、アヤソフィア博物館などをめぐり、水やイスタンブールの歴史等への理解を深め、夕方からは明日の「第5回世界水フォーラム」の開会式参加の準備等を行った。



ボスポラス大橋のミニチュア



金角湾を臨みながらランチ

はみ出し

## Photo

## イスタンブールでの食事・生活



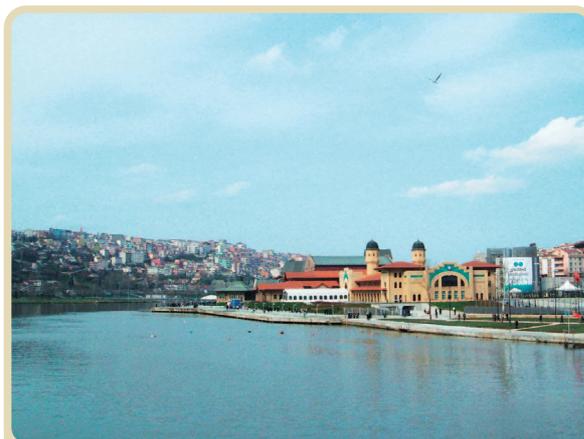
# 10 活動レポート(第6日目)

## 1 「第5回 世界水フォーラム」開会式

「第3回世界子ども水フォーラム」プログラム5日目となる3月16日から、「第5回世界水フォーラム」のプログラムが22日まで始まった(世界192の国と地域、延べ33,058名が参加)。そのオープニングとなる開会式には「第3回世界子ども水フォーラム」の子どもたちも参加した。

開会式では「第5回世界水フォーラム」事務局長や各国の首脳等が演説を行い、日本からは皇太子殿下がスピーチをされた。

開会式の終盤では、「第3回世界子ども水フォーラム」の参加者全員が壇上にあがることとなり、それぞれが民族衣装等に身を包みながら、このフォーラムで作成した宣言文のパネルを掲げていた。



第5回世界水フォーラム会場



開会式へ参加する世界各国の代表者等



第5回世界水フォーラム開会式への参加

## 2 「地球水教育村」でプロジェクトWETを体験。

午後は橋を歩いて渡り、開会式の会場とは金角湾を挟んで反対側の「Feshane」という会場に設置されている「地球水教育村(プロジェクトWET国際主催)」に移動。

子どもたちはグループにわかれ、各国のファシリテーターの指導のもと、「驚異の旅」や「塵もつもれば」「青い惑星」等の日本でもおなじみのアクティビティなどを順番に体験し、楽しみながら水について学んだ。

「地球水教育村」には河川環境管理財団及びプロジェクトWETジャパンのブースが設けられ、日本の水事情や河川環境教育、体験活動時の安全管理等のパネルを閲覧することができ、ライフジャケット等が飾られた。訪れた方々のほとんどが「TAKE FREE」となっている各種英語のパフレット等を持って行くなど、終始盛況であった。



地球水教育村の会場



プロジェクトWETの体験



地球水教育村における財団ブース

### 3 Cultural Presentation (文化紹介)

夕方は各国の参加者がそれぞれ出し物を行う「Cultural Presentation (文化紹介)」の場が設けられ、各国の子どもたちが見守るなか、日本からの参加者は先陣を切って会場を盛り上げようとした。カッパのコスチュームに身を包んだ門口君が英語でカッパの説明をし、仲野さんからの炭坑節についての説明のあと全員でその踊りを披露した。

各国から劇や踊り、太鼓の演奏などが行われるなか、折り紙で鶴や紙飛行機の作り方を教えるなど積極的に文化交流を行っていた。



日本の子どもたちは「炭坑節」を紹介



各国の子どもたちからの文化紹介

# 11 活動レポート(第7日目)

## ① 「第3回世界子ども水フォーラム」閉会式

3月12日から、ここイスタンブールで始まった「第3回世界子ども水フォーラム」のプログラムも6日目となる3月17日に最終日を迎えた。

午前中は皇太子殿下がご講演されたセッションに参加し、水と災害について学び、日本パビリオンをはじめ海外も含めた様々な企業や団体、行政等の出展ブースを見学し、見聞を広めた。

午後は前日同様「地球水教育村」のある会場に移動し、メキシコの子どもたちの発表を聞くなど、様々なNGO等のブースを訪れ、閉会式に臨んだ。

閉会式では、各国参加者に「第3回世界子ども水フォーラム」修了証が渡され、各国の子どもたちの大会を終えての感想(日本からは曾根さんが代表してこの5日間のフォーラムで得られた事などを述べた)、主催者挨拶等があり、プロジェクトWET国際ナショナル副代表のジョン・エトゲン氏からは、「大事なのは次にこれからどんなアクションを行うかである。どんな小さな水の分子でも集まればやがて大きな川になる。皆さんのこれからの活動に期待します」といったエールがあった。



「水と災害」のセッションにて①



「水と災害」のセッションにて②



日本パビリオンを見学



第3回 世界子ども水フォーラム閉会式会場

## 2 皇太子殿下が閉会式にご臨席され、子どもたちとご歓談された。

「第3回世界子ども水フォーラム」閉会式には日本から皇太子殿下がご臨席された。会場のアナウンスのもと、各国参加者から大きな拍手で迎えられ、日本の子どもたちの隣にご着席された。

閉会式終了後は日本の子どもたち6名とご歓談の時をもたれ、子どもたちひとりひとりから、日頃日本でやっている水に関する活動の紹介やこのフォーラムで得られた成果や感想等に耳を傾けていらっしやう。

たくさんの報道陣に取り囲まれるなか、皇太子殿下との貴重な歓談の時間を過ごすことができ、この「第3回世界子ども水フォーラム」での忘れられない思い出をまた一つ増やし、日本の子どもたちは会場を後にした。



プロジェクトWET副代表からの挨拶



第3回世界子ども水フォーラム閉会式



開会式後の交流



メディアからの取材

# 12 活動レポート(第8日目)

## 1 地球水教育村の“Children's Activities of Water”の場での発表

この派遣日程の最終日となる3月18日は「第3回世界子ども水フォーラム」のプログラムとは別に地球水教育村にて、“Children's Activities of Water”と題した日本の子どもたちの発表の場を設けており、今まで勉強会等で行っていた発表の集大成を披露した。

森日本水フォーラム会長(元内閣総理大臣)が出席される中、「Developing More Effective Activities(活動を更に広げるために)」、「Seeing is Believing -learn about nature through hands on experiences(百聞は一見にしかず)」、「Change People's Thinking -It begins with children-(意識改革)」、「Safety of river activities(川での体験活動時の安全確保)」と題した発表をパワーポイントを使って発表し、日本の子どもたちの水に関する活動の紹介を行うことができた。



地球水教育村での発表



Developing More Effective Activities



Seeing is Believing



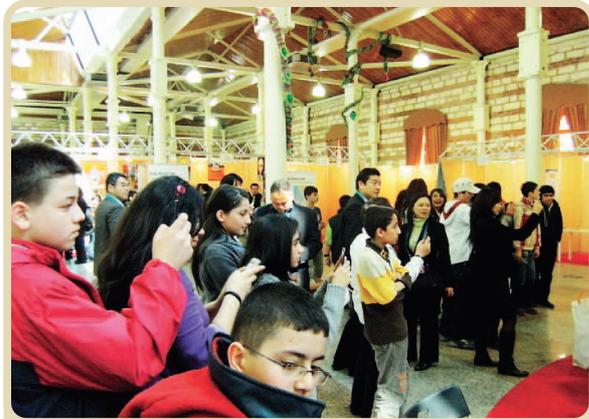
Change People's Thinking

## 2 ボスポラス海峡を横断し、空港へ

午後は「第5回 世界水フォーラム」の会場に別れをつげ、ボスポラス海峡を挟んで対峙するイスタンブールのヨーロッパ側とアジア側の両サイドを船で横断し、この大会のメインテーマ「Bridging Divides for Water」の基となった。イスタンブールの稀有な地形を肌で感じる事ができた。その後空港へと向かい、関西空港に到着したのち、それぞれ帰路についた。



Safety of river activities



発表に聞き入るトルコの子どもたち



森元内閣総理大臣と記念撮影



ボスポラス海峡を横断



# 13 日本の子どもたちの水に関する活動の発表

(※は第3回世界子ども水フォーラムでの発表者)

## テーマ 1

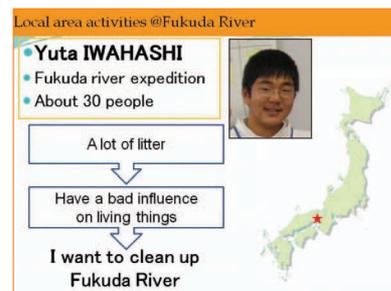
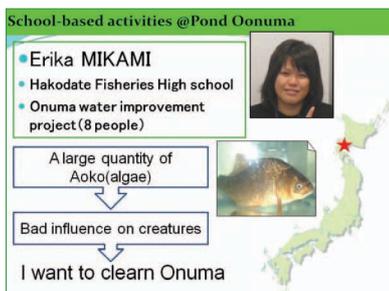
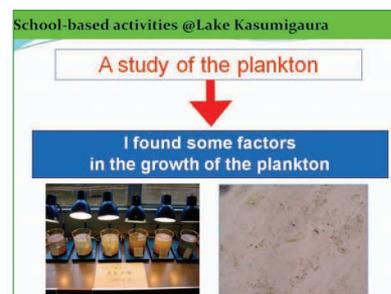
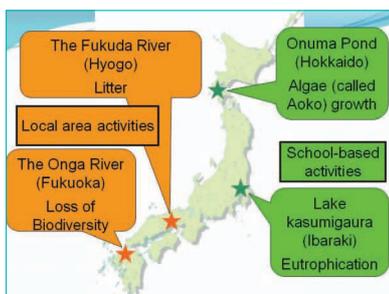
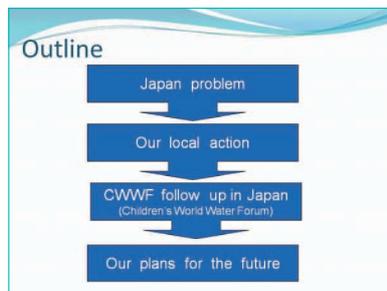
### Developing more activities

(活動を発展させるために)

#### グループ

門口光司\*  
坂本裕基\*  
三上絵理華  
岩橋祐太

- 日本は水がきれいで豊富にあると思われているが様々な水問題を抱えている。それに対し学校や地域等を主体に、子ども達は水に関する様々な活動を行っている。
- 日本では、世界子ども水フォーラムの国内大会を毎年開催し、お互いの活動の紹介や情報交換を行い、それぞれの地域での活動を更に高め合っている。



Local area activities @Fukuda River

Children and adults picking up trash together for the community

Living things have increased, but trash has not decreased.

Local area activities @ Onga river

- Yuki SAKAMOTO
- YNHC (Youth Natural History Club)
- About 20 people

The river water was polluted

Fireflies can't survive

Firefly  
Symbol of clean river

What should we do?

Local area activities @ Onga River

Recreate clean environment for fireflies!  
Fireflies come home!

We succeeded in breeding 69 fireflies  
Improved the consciousness of the local people

Before → After

Ready for fireflies!!

Disadvantage of our activities

School-based activities	Local area activities
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Too technical</li> <li>• Elusive activities</li> <li>• Student movement</li> <li>• Lack of Budget</li> <li>• Effects are not immediate</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Less effective with fewer members</li> <li>• Less expertise</li> <li>• Inconsistent</li> <li>• Only stopgap measures</li> </ul>

Combine both activities, to make better water environment.

How can both of them act together?

One solution is domestic event

We have CWWF-follow up every year.

- Conference
- Presentation
- Discussion

Increase motivation!  
Exchange information!  
Make new activity!

Link all activities to solve the problem.

Example after CWWF-f: introduces about activities of children in other prefectures.

Make friends all over the world!

Exchange information each other!!

Why don't you organize domestic events to exchange your opinion and knowledge?  
Let's keep in touch!!!

# はみ出し Photo

## 各国との交流など



テーマ  
**2**

# Seeing is Believing

～learn about nature through hands on experiences～

(百聞は一見にしかず ～体験から自然を学ぶ～)

グループ

仲野美穂\*  
曾根裕子\*  
高木駿  
山崎愛柚香

- 近年、日本の子ども達はあまり川で遊ばなくなり、そのため川のありがたみが薄れつつある。しかし体験活動を行うことで、本だけでは学ぶことのできない様々なことを、体で感じ、学ぶことができる。
- 体験活動を行うことで、水の大切さや川の現状などの水事情を知ることができ、より川を身近に感じ、川での活動の意識が芽生えてくる。また、実際に体験をすることで、自分自身の自然に対する理解が深まり、分かりやすく自然の大切さを人に伝えることができるようになる。

**Seeing is Believing**  
learn about nature through hands on experiences

Syun Takagi  
Miho Nakano  
Ayuka Yamazaki  
Hiroko Sone

**Outline**

- 1) Situation in Japan
  - Japan has beautiful nature, but
  - Lack of hands-on experience causes various problems
- 2) Local Challenge
  - It is an actual occurrence
  - We are face-to-face with
- 3) Local Action
  - ① Hiroko and Miho's Action
  - ② Ayuka's Action
  - ③ Syun's Action

Importance of hands-on experience

**Attraction of Japanese nature**

We can enjoy the four seasons  
ex,  
• camping, river swimming,  
• playing with snow, skiing,  
• cherry blossom-viewing picnic

**Water related problems in Japan**  
Not having the opportunities to enjoy the outdoors

↓

Lose understanding of the importance of water

- throw out our garbage
- cause accident at river or sea

**Problem in local area**  
Children no longer play in the river

- education keeps children back away from river
- rivers are polluted and dangerous
- dumping trash
- releasing non-native fish

Lack of moral responsibility  
People don't think about river

# Local Actions

**L.A.① Hiroko and Miho's Action**

- ◆ Canoeing,
- ◆ E-boat
- Enjoy and understand the River
- Deepen our friendships
- Learn by communicating with nature

Enjoy

**L.A.② Ayuka's Action**  
Make the children realize that they are conserving rivers

- Traveling Aquarium at elementary schools
- A chance to get wet safely with life jackets

★ 100,000 children participate every year

**L.A.③ Syun's Action**

- Traditional lifestyle
- Well-water
- Mountain water

↓

Appreciate water and live more in tune with nature

**Through hands on experiences**

<b>Awareness</b> We know the present situation of the River —Easier than studying through books	<b>Affinity with River</b> We can feel nearer the River —Appreciate and love the river	<b>Persuasiveness</b> We can use the knowledge we have experienced to help teach others
---	--	--

**Let's start experiencing**

# Change People's Thinking

~It begins with children~

(意識改革 ~広がれ、子どもの輪~)

**グループ**

荒川桃子\*  
吉野智美\*  
曾根裕子

- 川は楽しい場所でもあり、時には災害をもたらす恐ろしい存在である。しかし、最近では、川や水に興味を持っている子どもたちが少なくなり、様々な問題が起こっている。
- 私たちはいざというときに備えた防災活動や、水を大切にすることへの啓蒙活動、仲間作りを行っている。
- 大切なのは子どもから子どもへ気付けさせること。楽しく活動をすること。そうすれば人々の意識が変わるはずだ。



**Content**

①The importance of community spirit

②Activity in Japan  
L.A1 Saba River  
L.A2 Tokyo  
L.A3 Onga River

③The way of creating interest

**The importance of community spirit**

Japanese river has many good points

**The importance of community spirit**

**Activity in Japan①**

L.A1 Saba River  
L.A2 Tokyo  
L.A3 Onga River

**Local action1 Saba river**

Disaster prevention → Have no knowledge of water

**Local action1 Saba River**

Realize the fear of the water

Activity of "Akaza circle"

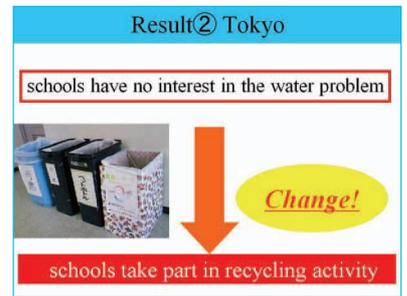
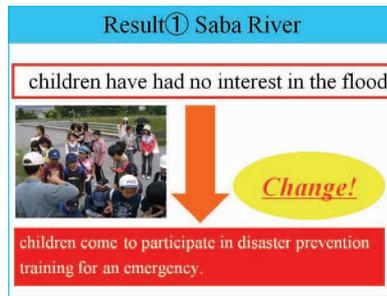
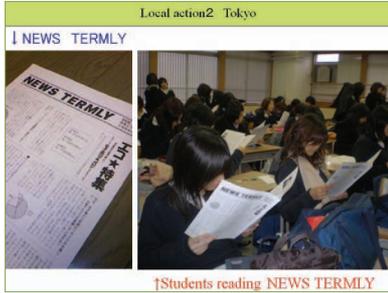
Disaster prevention by children

**Activity in Japan②**

L.A1 Saba River  
L.A2 Tokyo  
L.A3 Onga River

**Local action2 Tokyo**

↓Making "NEWS TERMLY"



はみ出し Photo

関西空港ほか



## トルコ共和国と会場周辺



### トルコ共和国

公用語／トルコ語  
首都／アンカラ  
最大の都市／イスタンブール  
面積／780,580km<sup>2</sup>  
人口／74,816,000人  
(2008年総計)



金角湾とガラタ橋

# 14 参加者の感想

※主な意見を抜粋

## 1 発表

### 1 日本の活動の発表を通じて感じたこと・得たこと

- 日本の子供たちは、身近なところから、自分からアクションを起こしています。すぐに活動の効果は出ませんが、「子どもが活動している」所に意味があると思っています。でも、外国の子ども達は「子ども」が活動していることよりも、活動の「即効性」や「効果」に重きを置いているような気がしました。

- 日本には世界にも誇れるところがあると思いました。  
自分が一番思ったのは、「自分でやろうとする心」です。  
世界には「政府にたよる」ということがけっこうあったように思います。  
日本には、そういうところが少なかった気がします。  
自分でまずはやってみようという心がいいなと思いました。  
そういうところが日本の発表の中で思いました。  
何か水のために、みんなのためにしたいという気持ちはとても大切だと思いました。

- 日本の水に対する意識について改めて整理し、理解することができた。その上で、水がこんなにも身近に存在するのに、日本人はなぜ無関心なのだろうか。という疑問、また日本の水事情がこんなにも恵まれていたことを改めて知ることができた。

### 2 日本の水事情と世界の水事情との違いについて感じたこと

- 日本で水道水は当たり前ですが、外国では水を運ぶパイプがさびていたり、破れていたりして十分な水が手に入りません。また、トルコでは綺麗な水を汲みに行くために学校に行けない子どもたちが沢山いることも聞きました。そういった外国の事情は本や教科書で読んだことはありますが、あまり実感が湧きませんでした。実際に子ども達にあってみて本当に深刻な問題だと思いました。

子ども達の背景にある水事情が大きく違うだけに、本当に意味のある意見の交流をするためには、もう少し時間が必要だと感じました。

- 日本は環境的に先進していると感じました。私達は蛇口をひねれば全国どこの地域でも安全な飲み水を得ることができますし、まず安全な水が飲めなくて病気やなくなってしまうということはありません。日本では積極的に川での体験活動や情報交換できる場がありますが、世界にはあまりそのような機会がないように感じました。また、世界には安全な水が飲めなくて15秒に一人の子どもがなくなったり、週に何日も断水で水が飲めない国があるなど想像をこえる世界の現状に戸惑いました。僕達はこのような現状を悲観するだけではなくて、どうしたらよくなっていくのかみんな考え、活動していく使命があると感じました。

- 日本には水が豊富にあるが、他国には安全な水が飲めない、死んでしまう国もあるというほど、差が激しすぎる。

人間には誰も、生きるために水が必要なのに、なぜ国や地域、環境によってこんなにも偏りがあるのだろうか。と驚くことを感じた。

### 3 日本の子どもたちの活動で誇れること

- まず、子どもが活動していることにあります。外国では子どもが出来ない大きなことを掲げているところが多かったけれど、日本の活動は全て子どもが主体となっています。もうひとつ、日本の特徴として感じたのが、水で遊んだり、川で遊ぶ活動をしていることです。今回外国でそのような活動をしている話は聞けなかったため、これは日本が誇れることだと思います。あと、日本の子ども達は本当に「川や水が好き」という思いが純粋に強いと思いました。

- 子どもたちが自主的に行動を起こして、現状を変えようとする意識が高いこと。それを発揮する環境も整っているし、積極的に交流しようとする気持ちを持っていること。幅広い視野を持って、解決に取り組んでいるということ。地元への愛着をもって活動しているということ。感謝の気持ちをもってしているということ。

- 日本の子ども達は研究活動や体験活動、広報づくりなどを実施し自分達には何が出来るのかということ自分で考え活動していることだと思います。また、日本には防災をする子どももいれば学校で研究をしたり、広報をつくったりする子ども、地域で川の体験活動や保全活動をする子どもいるなど活動が非常に多様だと思います。また、この活動がばらばらに行われているのではなく協力関係があって、お互いが励ましあいながら活動しているのは日本の子ども達の誇れるところだと思います。

### 4 海外の子どもたちの活動で参考になったこと

- 参加人数の多さ。(日本とは比べ物にならないほど多くの人に参加している。)パンフレットやCD、HPなどを作って広報する。水に関するモデルや絵を作る。水や命に関しての絵画などを学校単位で取り組む。
- 海外の子ども達の活動は、日本の子ども達に比べてかなり大人っぽいことをしていると思いました。きちんとした組織で活動していたり、大人やスポンサーの支援の下で活動していた子ども達もいました。大人を巻き込むとより一層活動の幅が広がることがわかりました。
- 環境に関する絵を募って、水問題について考えている人がいて非常に興味深く感じ、体験活動や研究活動など直接的なアプローチではなく、このような視点からのアプローチの仕方もあるのかと勉強になりました。

## 2 グループワーク等

### 1 国際会議での発言について（自分自身が大会中に発言したことなど）

- YNHCで、交流会での体験活動などのイベントを自分たちで考えて、自分たちで運営していることを例に、他の人の意識を変えるためには、自分たちがまず行動を起こす必要があるということ。そして、それを大人に支援してもらいたいということ。
- 日本で行っている体験活動などの実例を交えながら今私達に何ができるのかということや政府などに応援を頼ることも大切だがまずはこの問題の中心にいる私達には何ができるのか考え小さなことでも私達からはじめることが最も重要なことだと訴えました。

### 2 グループワークを円滑に行う上で必要と感じたこと

- まず、英語が絶対的に足りないと思いました。通訳をつけていても、会話からワンテンポ遅れてしまい、少し英会話を身につけることが必要だとも感じました。また、各グループのファシが本当に頼りなくて、全くグループをまとめてくれませんでした。なので、日本のファシのような、頼れるまとめ役が必要だと思いました。あと、英語を自由に話せないのは日本人だけで、話している間にどうしても疎外感を感じてしまいます。でも、開き直って、恥ずかしさを捨てて、図々しいくらい発言した方がいいと思いました。
- まず、英語を勉強しなければならないと感じた。通訳を通しての発表だと、相手に直接気持ちが伝わらないし、相手が言っていることも自分の心に直接響かないような気がした。そして、強調したいところなども伝わらず、中々意見を取り入れてもらえなかった。  
次にグループの人たちの国がどこにあるのか、戦争があっていたなどの知識が必要だと思った。その国がどんな状況に置かれているのかをふまえて、意見を聞くとより分かり合えると思った。

### 3 各国参加者との意識の違いや共通点等について

- 私たちの自分から行動を起こすという意見にとっても賛成してくれる子どもたちもいたが、「環境や水問題を解決できるような技術を開発すればいい」や「政府が法律を作って解決すべきだ」などを発表している子どもたちがいて、私たちの意見に中々賛成してくれない部分もあった。しかし、教育やそれを受ける環境を求めている気持ちは一緒だった。
- 水問題を解決したいという思いはみな共通のもので、世界子ども水フォーラムのような国際的な子ども水会議は今後も継続して行っていくべきだという考えでした。
- 水の必要性、水に対する思いは共通だと感じる事ができた。だが、日本では川や水辺、森などにゴミを捨てる者がいるが、水が少ししかなく大切に使用している国ではそのようなことがありえないため、水への接し方に違いがあり、日本の水に対する教育の場が少なすぎることを感じた。

### 3 全般

#### 1 良かった点・得たこと・感じたことなど

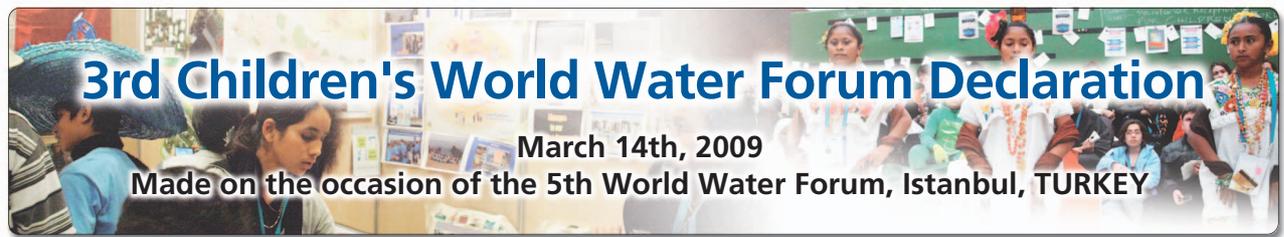
- 自分の周りに、水のことに関して、活動している人が少なくても世界には、たくさんいました。様々な考えを持っていて、様々な活動をしていました。水のことについて活動することは、じつはおかしいのではないか、まちがっているのではないか、そう考えたこともありました。でもそれはちがいました。世界にはそういう活動をしている人がたくさんいて、自分は一人じゃないのだと思いました。自分の発表を聞いて、「おもしろいね」とか言ってもらえて、自分の活動は誇りに思っているのだと思いました。日本はなんて素敵な国なのだろうと、世界を少し知って思いました。日本で水の活動ができてよかったと世界水フォーラムに参加してよかったと思いました。
- 水の現状を直接聞くことで、深く残り、親身に感じる事ができた。日本で活動していく中では得ることができない水・想い、また、壁。これらを知り、感じる事ができた私は、何とかこの現状を変えたいと強く思っている。この思いをこのままで終わらせるのではなく、これからの活動、生きていく上で考えて、行動していきたく思う。私の下手な英語でも少し伝わって、メールアドレスを聞いて、情報交換することができるので、さらに多くのことを学んでいくつもりだ。

#### 2 この大会で得た経験を自分自身の活動にどう活かしていこうと思いますか？

- 今までは日本のことしか知らなかったのですが、今回のトルコ大会で多くの人と交流して視野が広がったと思います。外国と比べて初めて日本のよさと足りないところが見えてきたので、それを活かしたいです。
- もっと視野を広げて、防災だけでなく水の勉強をしていこうと思います。水の活動に対するみんなの考えを変えていこうと思います。日本には、こんなすごいことをしている子どもがたくさんいるのだということを伝えられたらいいなと思います。世界に負けないような活動を楽しんでいこうと思います。

#### 3 日本の他の子どもたちにどのように伝えていきますか？

- 地域の環境イベントや学校の文化祭など通して伝えていく（ポスターにまとめる）。水に関する広報物を作成し、配布する。ホームページに掲載する。（現在、個人でHP作成中。全国の取り組みや水問題などを掲載する予定）マスメディアの力を利用する。公民館等に展示をしてもらう。中学校などへ出張授業などを行なう。
- 子どもたちに感心がないという問題は本当に日本にとっても世界にとっても深刻だと思います。それを解決するために私たちが発表した体験活動を行っていく、私たちが声をかけていくという提案も一つだと思います。それを続けつつ、今度は教育をする先生方に広めていきたいと思っています。今体験活動が必要なのは子どもではなく高校生や子どもの教育をする立場である大人だと思います。だから、親子で参加してもらえるようなイベントなどを考え、水という一つの問題でたくさんの人と人との絆ができたことを言葉で説明するのも大事ですが、身体で伝えていきたいと思っています。



**Participating children agreed on the following issues as priorities for future action.**

### **Protecting the quality and quantity of water resources**

- Water must be protected and used consciously. There are different phases about this. Firstly people should be educated.
- We can build filters to clean water.
- Industrial waste should not be thrown into water resources.
- The technology involved in the use of purifying and collecting water should be improved.
- Underground water should be researched more and its usage should be limited.
- Filtering the chemicals released from factories would save water. People should be kept aware of the situation.
- The infrastructure of old cities must be improved.

### **Protecting the environment**

- The production of dams should be decreased.
- Deforestation can be stopped.
- Action should be taken in order to decrease global warming. For example; Drive less, use public transportation, recycle, reuse, decrease the usage of substances that cause greenhouse effect and focus on the other sources of energy such as wind and solar and increase the usage of substantial energy. Think about the future, not just the present.
- Wells cause damage in agricultural fields. The wells should be made more responsibly.

### **Finding new sources of water**

- Systems should be created to collect rainwater. Use that in our toilets and we won't have to purify it and waste the rainwater.
- Without water recycling, plants and animals will be affected.
- Highways and the roads that each country has can contain drains and when rain falls the water will go to the drains and water can be distributed to the houses.
- Agricultural technologies must be developed and increased, for example drop system.

### **Rights, solidarity and cooperation**

- Every individual must have the right to access to clean water.
- Some countries in the world should not keep the water to themselves totally and share it. There should be an international framework on the division of water.
- Funds relating to the subject should be increased so the technology can be improved and transferred within nations.
- Building of an international independent and non-governmental framework (for example U.N.) for water problems.

### **Children's role**

- We have to publicize that we don't have much water in the world and we should pay attention to children's projects. Advertise children's projects.
- We should hold national children forums.
- Children should be taken into consideration because children's ideas are not taken seriously. Children should be given authority to conduct projects. Government and local authorities keep their egos down. There may be international funds to support children's ideas and projects.

# 第3回 世界子ども水フォーラム 宣言文

2009年3月14日

第5回世界水フォーラム(トルコ共和国イスタンブール)にて

参加した子どもたちは、未来へのアクションのためのプライオリティーとして、以下の問題について同意しました。

## 水資源の品質と量を保護すること

- 水は保護され、意識を持って使われなければなりません。これにはいくつかの段階があります。最初の段階として、人々は教育を受けられなくてはなりません。
- 我々は、水をきれいにするために、フィルタを設置することができます。
- 産業廃棄物は、水資源に投棄されてはいけません。
- 水を浄化・集収して使うことのできる技術を発展させる必要があります。
- 地下水は、より調査されなければなりません。また、水の酷使や地下水の取水は制限されるべきです。
- 工場から排出される化学物質を濾過することは、水を保全します。人々は、この状況を意識するべきです。
- 衰退している地域のインフラは、改良されなければなりません。

## 環境を守ること

- ダムの建設は減少されなければなりません。
- 森林伐採は止められることができます。
- 影響地球温暖化を減少させるためのアクションを起こさなければなりません。例) 自家用車の使用を減らし、公共交通機関を使うこと。リデュース、リユース、リサイクルを行うこと。温室効果を引き起こすような使用法や物質を減らし、風とソーラーのような他のエネルギー源に着目して、それらの使用量を増やしてください。現在にとらわれず将来について考えてください。
- 井戸は農業フィールドで損害を与えます。井戸はより責任をもって作られなければなりません。

## 新たな水資源の確保について

- 雨水を集めるためのシステムを構築する必要があります。トイレでそれを使えば、我々はそれを浄化する必要がなくて、雨水を浪費する必要がありません。
- 水のリサイクルがなければ、動植物は影響を受けてしまいます。
- 各国のハイウェイと道路が排水管を併せ持つことができれば、その排水管を通して雨水が貯水され、水が各家庭に配布されることができそうです。
- ドロップシステムのように、農業技術が向上され、拡大されなければなりません。

## 権利、団結と協力

- あらゆる個人には、きれいな水へアクセスする権利がなければなりません。
- 世界の数カ国による水の独占をなくし、水が共有されなければなりません。国際的枠組みが、水の分野になければなりません。
- 技術が発展し国内に普及されるよう、これらの課題に関するファンドが増やされなければなりません。
- 水問題に対する国際的な、独立した民間のフレームワーク(国連のような)の構築。

## 子どもの役割

- 我々は世界中で十分な飲み水が得られていないことを周知しなければなりません。そして、我々は子どもたちのプロジェクトに注目しなければなりません。どうか子どもたちのプロジェクトを宣伝してください。
- 我々は、子ども水フォーラムの国内版を開催するべきです。
- 子どもたちの考えが重要視されていないので、子どもたちのことはもっと考慮に入れられなければなりません。子どもたちは、プロジェクトを行う権限を与えられなければなりません。政府と地方自治体は、彼らの自我を抑えなければなりません。子どもたちの考えとプロジェクトを支えるための国際的なファンドがあるとよいでしょう。



3<sup>rd</sup> CHILDREN'S WORLD WATER FORUM  
ISTANBUL 12-17 MARCH 2009

平成21年7月 発行

**第3回 世界子ども水フォーラム派遣委員会 事務局**  
(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター内

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 11-9  
住友生命日本橋小伝馬町ビル2F

TEL.03-5847-8303 FAX.03-5847-8309  
[www.mizube-support-center.org](http://www.mizube-support-center.org)

R100



大豆油インキを使用しています。